

飼料用米の多収栽培技術の確立

要約

飼料用米において「あさひの夢」の多収栽培技術を検討したところ、発酵鶏糞施用と効果的な追肥による分施肥区（「発酵鶏糞」＋「基肥」＋「追肥」）において増収効果を確認することができた。

しかし、籾数の過剰で分施肥区は登熟歩合が最も低くなったため、今後は更なる安定生産に向け、より適正な栽植密度や施肥時期などの検討を行う。

○ 展示のねらい

飼料用米の作付を推進するには、収益を確保するための多収栽培技術の確立が必要である。そこで、管内で作付の多い「あさひの夢」の多収栽培技術を、地力維持のための「発酵鶏糞」と「肥効調節型肥料」の追肥および追肥を省いた「全量基肥肥料」で検討し増収効果を確認する。

区分	品種	移植時期	施肥 (kg/10a)			
			堆肥	基肥	追肥(出穂前20日)	N計
1 分施肥区	あさひの夢	5月初～中旬	発酵鶏糞	オール14 (14-14-14)	NK202 (20-0-20)	
			150kg	80kg	20kg	
				N11.2	N4	N15.2
2 全量基肥区	あさひの夢	5月初～中旬	発酵鶏糞	飼料米専用211 (20(8)-10-10)		
			150kg	75kg		
				N15		N15
3 慣行区	あさひの夢	5月初～中旬	—	オール14 (14-14-14)	NK707 (17-0-17)	
				80kg	20kg	
				N11.2	N3.4	N14.6

○ 主な成果

分施肥区は、発酵鶏糞の投入と基肥窒素の増施によって生育初期から分けつが促進された結果、多くの穂数を確保でき、また一穂粒数も多くなったことで、総籾数は慣行区を大きく上回り、増収を確認することができた。

表1 最高分けつ期調査

区分	茎数 (本/株)	茎数 (本/m ²)
分施	32.6	494
全量基肥	30.1	456
慣行	27.1	410

表2 収量構成要素

区分	穂数 (本/m ²)	1穂粒数	籾数 (百粒/m ²)	登熟歩合	千粒重 (g)	粗玄米重 (kg/10a)	くず米重 (kg/10a)
分施	442	106	467	87.1	20.1	712	79
全量基肥	388	114	443	92	21.9	704	33
慣行	363	92	333	89.8	21.5	690	27

○ 今後の方向性

分施肥区は慣行区や全量基肥区と比べ収量は多かったものの、千粒重や登熟歩合が低かった。その原因としては、総籾数の過剰が考えられる。千粒重や登熟歩合が向上すれば更なる増収が見込めるため、今後は更なる安定生産に向け、より適正な栽植密度や追肥時期などの検討を行う。

実施機関：芳賀農業振興事務所経営普及部 実施場所：芳賀町

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315